

# Top Interview

トップインタビュー

— 変革に挑む —

まとめ／荒尾貴正 撮影／中岡邦夫

## 社会のニーズに応えるという 専門学校の使命を果たし 「職業教育」の確立に貢献したい

### 敬

心グループは、専門学校教育を中心とした教育事業や福祉・医療事業を展開しています。専門学校については、福祉、医療、保健、保育、児童文化の各分野の専門職を養成する5つの専門学校を運営しています。また、福祉事業としては社会福祉法人を立ち上げ、高齢者福祉施設や障がい者福祉施設などを経営しています。

専門学校の役割とは、社会のニーズを的確にとらえ、社会が求める人材を育成することです。本グループもそれを念頭に邁進してきました。当初は教育事業のみでスタートしましたが、福祉や医療の現場が求める知識、技術、人材を手取るように理解するには、自前の施設が必要との結論に達しまし

た。そのために福祉事業を始めたという経緯があります。すなわち、真の実学教育を追求してきた結果、現在の敬心グループの姿になったのです。

そうして現場のニーズを吸い上げ、即座に教育に反映してきたこと。また、「敬心」という言葉が示す「他人を敬い自らを律し、人々の心を大切にすること」という理念を伝え続けてきたこと。それらにより、確かな教育成果を上げてきたと自負しております。例えばそれは国家試験合格率に表れています。日本福祉教育専門学校の社会福祉士合格率は82.9%（合格者68人／昼間部、12年度）。全国平均の26.3%をはるかに上回り、2年連続全国1位となりました。精神保健福祉士や言語聴覚士の

合格率も全国平均を大きく上回っています。毎年寄せられる数多くの求人票も高評価の証と受け止めています。

人それぞれ「能力」や「適性」は異なり、誰しもかけがえない「良さ」をもっています。そのように一人ひとりを認め、評価し、励ますことが私たちの教育の基本です。そういう観点から見たとき、現在の日本には憂うべき状況があるように思います。

最大のもは「いじめ」問題です。もし個々の存在を相互に認め合おうという教育がなされ、家庭や学校でそういう人間関係が育まれるならば、こんな悲しいことは起こらないでしょう。大きな要因のひとつに「学術中心の偏った教育」があると私は見えています。「知識」をもつことばかり重視され、それ以外の能力や特性を認めない風潮があるのではないでしょうか。言い換えるなら、今の日本の教育現場では「アカデミック教育」ばかりが評価され、「プロフェッショナル教育」がなおざりになっているように思っています。このままでは国の活性化はままならず、今後の国際競争もおぼつかないだろうと私は憂慮しています。

この国の未来には世界と渡り合える「職業教育」が不可欠です。敬心グループは、その旗印となる所存です。



### 小林光俊

敬心グループ  
（日本児童教育専門学校  
日本福祉教育専門学校  
日本リハビリテーション専門学校  
日本医学柔整鍼灸専門学校  
臨床福祉専門学校）  
理事長

【理事長プロフィール】こばやし・みつとし●1943年生まれ。1967年大東文化大学卒。米国サンフランシスコ州立大学客員教授、学術博士。現在、学校法人敬心学園理事長、学校法人情報学園理事長、社会福祉法人敬心福祉会理事長、全国専修学校各種学校総連合会会長、社団法人日本介護福祉士養成施設協会会長。

【グループプロフィール】1973年グループ創設。82年日本児童教育専門学校（現日本児童教育専門学校）開校。84年日本医療福祉専門学校（現日本福祉教育専門学校）開校。97年日本リハビリテーション専門学校（現日本リハビリテーション専門学校）開校。02年日本柔整鍼灸専門学校（現日本医学柔整鍼灸専門学校）開校。03年臨床福祉専門学校開校。